

執筆者紹介

モートン・H・ハルペリン

オープン・ソサイエティー研究所上級顧問。1958年コロンビア大学卒業、1961年イエール大学において博士号（国際関係論）取得。クリントン、ニクソン、ジョンソン政権において政府の要職を歴任し、国務省政策企画室長（1998～2001年）、国家安全保障会議大統領特別補佐官・民主化担当上級部長（1994～1996年）、民主化・平和維持担当国防次官補（1993年）、国家安全保障担当国防副次官補（政治・軍事的計画、軍備管理を所掌）（1966～1969年）などの役職において、核政策と軍備管理問題に関与した。政府以外では、外交評議会（CFR）、センチュリー財団・21世紀基金、カーネギー国際平和基金、ブルッキングス研究所などにも在籍した。また、コロンビア大学、ハーバード大学で教員を務めたほか、マサチューセッツ工科大学、ジョージ・ワシントン大学、ジョンズ・ホプキンス大学、イエール大学をはじめ、多数の大学において客員教授として教鞭を執る。核問題や外交問題について幅広い著作があり、*Strategy and Arms Control*（トーマス・シェリングとの共著、1961年）、*Limited War in the Nuclear Age*（1963年）、*China and the Bomb*（1965年）、*Contemporary Military Strategy*（1967年）、*Bureaucratic Politics and Foreign Policy*（1974年）、*Nuclear Fallacy*（1987年）などがある。

佐藤行雄

（財）日本国際問題研究所副会長。元国連大使。1960年、外務公務員採用上級試験合格、61年、東京大学法学部第三類を中退し、外務省入省。アメリカ局安全保障課長（76年）、外務大臣秘書官（77年）、外務省大臣官房総務課長、同大臣官房審議官（87年）、在香港総領事（88年）、情報調査局長（90年）、北米局長（92年）、駐オランダ大使、駐オーストラリア大使を経て98年に国際連合日本政府代表（大使）。その間、大蔵省主計局主計官補佐、警察庁・宮崎県警本部長を歴任。2002年8月に退任。2003年2月より日本国際問題研究所理事長、2009年2月より現職。1961～63年、英国エディンバラ大学にて歴史学を学ぶ。日本の外交・安全保障政策に関する論文多数。

M・エレーヌ・バン

国防大学国家戦略研究所 (INSS) 上級研究員、将来戦略構想プログラム・ディレクター。国防省長官官房 (OSD) の上級幹部として、20年以上にわたって国際安全保障政策に従事。1993～1998年核戦力・ミサイル防衛政策の主任部長を務める。この間、1994年の核態勢見直し (NPR) において主任部長も務めた。1998～2000年までランド研究所客員研究員。2001年、2009年のNPRの検討に際しては、課題整理のためINSSからOSDに出向。国防科学委員会による戦略攻撃に関する研究 (2003年)、及び2008～09年の戦略態勢に関する委員会の専門家会合に参画。ジョージア大学卒業、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院 (SAIS) で国際安全保障修士取得、1988年国防大学卒業。フルブライト奨学生としてスイスのヌーシャテル大学にも留学。戦略計画、核政策、ミサイル防衛、先制攻撃、抑止に関する論文、著書多数。

ユーリ・E・フォードロフ

英王立国際問題研究所 (チャタムハウス) ロシア・ユーラシア・プログラム客員研究員。専門分野はロシアの外交・安全保障政策。2006年1月まで、モスクワ国立国際関係大学 (MGIMO) 教授。前職はロシア政策研究センター (PIR-Center)、応用国際研究所 (PIR-Center) の副研究部長。以前には世界経済・国際関係研究所 (IMEMO) や、アメリカ・カナダ研究所にも在籍。2006年1月から英王立国際問題研究所ロシア・ユーラシア・プログラム主任研究員を経て、現職。チェコの国際問題研究所 (AMO) の客員研究員も務める。2008年よりプラハ在住。ロシア、米国、ヨーロッパにおいて著作多数。主な研究関心はロシアの戦略文化、外交・安全保障政策。スウェーデン国防大学によるプロジェクトの枠組みで、ロシアと北大西洋条約機構 (NATO) の関係、米国の外交政策と欧露関係に対する最近の選挙の影響について、3冊の書籍で複数の章を執筆し、編集も担当。また、カスピ海地域を含めたエネルギー安全保障問題に関する著作もある。中央アジアやカスピ海地域における中国、西欧諸国とロシアの戦略的關係についての研究プロジェクトも企画。近著に、“Medvedev’s Initiative: A Trap for Europe,” Research Paper 2/2009 (Prague: Association for International Affairs, July 2009); “The Sleep of Reason: The war on Georgia & Russia’s foreign policy,” Research Paper 5/2008 (December 2008); “Russia: ‘New’ Inconsistent Nuclear Thinking and

Policy,” in Muthiah Alagappa, ed., *The Long Shadow: Nuclear Weapons and Security in Twenty-First Century Asia* (Stanford: Stanford University Press, 2008) などがある。

夏立平

同済大学教授。同大学政治・国際関係学院院长。上海国際戦略問題研究所秘書長、上海環太平洋国際戦略研究センター副所長や、國務院発展研究センター・国際技術経済研究所の高級訪問研究員も務める。専門分野はアジアの安全保障、核不拡散、中国の外交。1991年人民解放軍外国語学院で法学修士、華東師範大学で博士号（世界史）取得。2007年12月～2008年4月まで、上海国際問題研究所においてアメリカ研究室主任、ラテンアメリカ研究センター長、1996～2007年11月まで上海国際問題研究所戦略研究部長、1989～1996年人民解放軍国防大学戦略研究所副教授を歴任。著作に、『当代国際体系与大国戰略關係』（時事出版社、2008年）、『中国和平崛起』（中国社会科学出版社、2004年）、『亜太地区軍備控制与安全』（上海人民出版社、2002年）などがある。

ラジェシュ・ラジャゴパラン

ジャワハルラル・ネルー大学教授。同大学国際学部付属の国際政治・機関・軍縮センター長。1998年ニューヨーク市立大学にて博士号取得。オブザーバー・リサーチ財団（ニューデリー）上級研究員、防衛分析研究所研究員を歴任。インド政府において国家安全保障会議事務局次長も務めた。ニューヨーク市立大学ハンター・カレッジ、同ブルックリン・カレッジ、同クイーンズ・カレッジでも教鞭を執った。専門分野は国際関係史、軍事ドクトリン、対内乱作戦、核兵器・核軍縮。著書に、*Second Strike: Arguments about Nuclear War in South Asia* (New Delhi: Penguin/Viking, 2005)、*Fighting Like A Guerrilla: The Indian Army and Counterinsurgency* (New Delhi, India and Abingdon, U.K.: Routledge, 2008) がある。Contemporary Security Policy、India Review、South Asia、South Asian Survey、Contemporary South Asia、Small Wars and Insurgencies、Strategic Analysisなどの学術雑誌に論文多数。The Hindu、Indian Express、Financial Express、Hindustan Timesなどのインドの新聞にも寄稿している。

ジョン・シンプソン

英国サザンプトン大学教授。1990年より現職の他、同大学マウントバツテン国際研究センター（MCIS）初代所長、同核不拡散プログラム（PPNN）代表等を務めてきた。公職としては、1982～1984年に通常兵器軍縮に関する国連事務総長研究委員会の英国代表、1999～2009年に、NPT再検討会議及び同準備会合英国代表団顧問、また1993～1998年に軍縮問題に関する国連事務総長諮問委員会メンバーを務める。また、2004～2008年にかけては1953～75年の英核兵器政策に関する研究プロジェクトを主宰した他、英王立協会において、科学と国際安全保障委員会に所属し、「英国における分離プルトニウムの管理の将来」に関する報告書作成に参加。現在は、「核エネルギーの持続性評価に関する統合的アプローチ」に関する英EPSRCプロジェクトの主任研究者も務めている。核不拡散問題や英国の核政策に関する著作多数。最近の著作に、*Deterrence and the New Security Environment* (London: Routledge, 2006)（共編著）、“The UK and the Threat of Nuclear Terrorism: A Case Study of Organisational Responses,” in Paul Wilkinson, ed., *Homeland Security in the UK: Future Preparedness for Terrorist Attack since 9/11* (Abingdon: Routledge, 2007) などがある。

ブルーノ・テルトレ

仏戦略研究財団（FRS）上級研究員。1984年パリ政治学院（シアンスポ）卒業。パリ大学で公法学修士号（1985年）、パリ政治学院で政治学博士号取得（1994年）。1990～93年までNATO議員会議（NATO-PA）事務局で文民問題委員会（Civilian Affairs Committee）担当ディレクターを務めた後、仏国防省（政策局）に入省。1995年から1996年に米RAND研究所客員研究員を務め、1996年10月～2001年8月まで仏国防省戦略問題局長補佐官。2007～2008年にかけて、国防白書編纂委員会委員を務める。英国際戦略研究所（IISS）会員、及び *The Washington Quarterly* 編集委員会委員。英語での最新著に、*War Without End* (New York: The New Press, 2005) がある。